

月刊

河井克行

平成二十三年七月号

衆議院議員 河井克行事務所

自由民主党広島県第三選挙区支部

国会事務所 TEL:03-3508-7518 FAX:03-3508-3948

広島事務所 TEL:082-832-7301 FAX:082-878-3301

ブログ「あらいぐまのつぶやき」 <http://kawai.fine.to/katsu>

20周年の決意、「平成の保守合同」による「保守革命」の実現を！

7月4日(月)、河井克行の政治活動20年記念の「ゆめづくり[夢創造]フォーラム」を市内ホテルで開催しましたところ、豪雨降る中、大勢の皆様にお集まりいただきました。心から感謝の気持ちでいっぱいです。

討論会には与野党の国会議員7人が参加。自民党・塩崎恭久、自民党・河野太郎、公明党・遠山清彦、みんなの党・江口克彦、国民新党・下地幹郎、新党改革・舛添要一、無所属・鳩山邦夫。コーディネイタは政治ジャーナリストの岩見隆夫氏。一時間余の討論で、国政のカギを握っている面々が、何を考え、どう動いているのか、地元の皆様に知っていただけたのではないかと考えています。

討論会に先立ち、河井克行が感謝の挨拶を申し上げました。『平成3年4月7日、県議選広島市安佐南区、20年前のあの日、私の名を書いていた皆様とともに政治活動は始まりました。山あり谷あり、至らぬ私を応援してきていただいた皆様から、「苦しいこともあったけど、あなたを信じてよかった」といつの日か言っていただけよう、国家国民のため、これからもこの身を賭して頑張ります。

民主党への国民の期待は消えてなくなりました。でも、自民党を積極的に支持する気になれない。国民は、政治への深い失望と将来への閉塞感の真っ只中にいます。そこへ起きたのが東日本大震災。日本の国力はこの先落ちるばかりでは、不安は募るばかりです。いま国民が待ち望んでいるのは「強い政治」です。価値観と政策を共有する政治家が結集して衆参両院で多数を占めなければ、この先何回選挙をやっても、日本の政治は漂流しつづけます。それをつくるのが「平成の保守合同」です。

「平成の保守合同」の旗印はなにか。それは「保守革命」です。革命的な政策、斬新で大胆な政策を保守が実行するのです。もはや“改革”とか“改善”なんかでは、日本の衰退を食い止めることはできません。福島原発事故によって、日本人の意識はガラリと変わりました。「原発推進」から「新エネルギー」へ、「官僚主導」から「真の政治主導」へ、「中央集権」から「道州制」へ、「消費増税」ではなく「安定した経済成長」を目指すのです。

国民が期待する強い政治を「平成の保守合同」と「保守革命」によって実現していきます。河井克行の挑戦はまだまだつづきます』



国会のキーマンたちが大集合！「日本の政治、これでよいのか」をテーマに語り合いました
遠山清彦氏 塩崎恭久氏 河井克行 下地幹郎氏 鳩山邦夫氏
(公明党) (自由民主党) (国民新党) (無所属)
河野太郎氏 岩見隆夫氏 江口克彦氏 舛添要一氏
(自由民主党) (コーディネイタ) (みんなの党) (新党改革)

福島第一原発事故への対応を国会で六たび、追及！

～「上安・相田地区黒い雨の会」会員の手紙も紹介～

4月13日衆議院法務委員会、20日外務委員会および厚生労働委員会、4月27日文部科学委員会、5月18日文部科学委員会、5月25日科学技術特別委員会で、河井克行代議士は放射能汚染の住民への影響を早急に調べるべきと政府を徹底追及。「上安・相田地区黒い雨の会」から託された手紙も読み上げ、長期にわたって怖いのは内部被爆だと何度も訴えました。

ところが、福島県民全員と近隣県民一部への早急な放射線量測定を河井代議士が強く訴えたのに対して、どの委員会でも関係閣僚らは、「やります。やります。検討します。」と、のらりくらり答弁を繰り返すばかり。

さらには、校庭・園庭の放射線安全基準を国際常識からかけ離れた20ミリシーベルトに引き上げた文部科学省に対し、「安全だと言い切れるのならば、福島の子供全員を大至急測定すべき。生物学的半減期が8日間といわれるヨウ素は早く調査しないと甲状腺から検出できなくなる。」と河井代議士が追及しても、他人事のような答弁が繰り返されたただけでした。

健康測定をなかなか始めようとしないのは、もし住民から放射線が検出されると、避難指示が遅れた責任により政権が倒れる。だから菅政権は意図的に住民の測定を遅らせた。そんな疑問が渦巻きます。



国の対応に鋭い質問を繰り返す河井克行代議士
(4月20日 衆議院厚生労働委員会にて)

事故直後、SPEEDI(放射性物質拡散予測図)は動いていた！

～「地域住民には知らせず、菅総理原発視察のためだけに使用」と追及～

文部科学省の関連法人が所管し、原子力事故が起きた時に放射性物質の拡散予測を計算する SPEEDI(緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム)が今回の事故直後は作動しなかった、とするこれまでの政府の説明がウソであったことが、河井克行代議士5月25日衆議院科学技術特別委員会の質問で明らかになりました。原子力安全・保安院と文部科学省と原子力安全委員会の答弁によると、事故直後の数日間だけで実は81件もの詳細な計算を行っていたにもかかわらず、放射性物質の拡散予測図は住民には一切知らせず、役所の内部だけにとどめていたことがわかりました。

しかもそのうちで、3月12日早朝、菅総理の福島第一原発視察の直前の拡散予測図だけが“なぜか”総理官邸に送られていたことも河井代議士の追及で明らかになりました。飯舘村をはじめとする周辺住民には放射能が飛んでくることを知らせない一方で、総理大臣が現地を視察する際の安全確保のためだけに、貴重な SPEEDI 予測図が使われたのです。

